

# 患者さんの意識が高まり、 もの見事に行動が変わります！

『食べることは生きることの意味を患者さんに知っていただくこと。噛める環境をより長く保てるように、歯科医師として今できる最高の治療をすること。そして、個々に合った予防プログラムを立てて口の健康を守り続けること。』  
「これがプロフェッショナルとしての自分たちの仕事だと考えています」と力強く語る富塚先生。  
その実現のために必要不可欠なのが「だ液検査」だといいます。  
患者さんの反応を肌で感じている、歯科衛生士の富士田さんと羽路さんも交えてお聞きしました。

あなたの家の壁の中に、  
シロアリがウジャウジャいたら？

富塚先生 「悪くなった原因を取り除き、健康であり続けるための環境をつくる」

これが当院における歯科医療のベースとなっています。目につきやすい「枝葉の治療」ではなく、本質を支えている「大きな木の幹となる治療」を行なう。それを果たすために必要不可欠なのが、だ液検査です。

富塚先生 だ液検査を行なうのは2回目の来院時ですが、説明は初診のときからしています。口腔内診査が全部終わって、現状を説明するタイミング。そこで、「当院では歯の治療を始める前にやっていることがあるんです」と話を切り出します。そ

して、オリジナルのスライドを使いながら何が必要かを伝え、予防の大切さを理解していただくんです。一番響くのは、院長が考えたシロアリの例え話ですね。

富塚先生 家に帰って壁に穴が開いているとすると、中にシロアリがウジャウジャいる。「○○さんならどうしますか？」って聞くと、みなさん間髪入れずに「シロアリの駆除します」と返ってきます。そうしたら、こう続けるんです。じゃあ、そこに「大丈夫ですよ」と僕が現れて、「セメントをベチャベチャ塗りつけて「はい終わりました」と言ったら？ 患者さんは唖然としますよね。

富塚先生 お口の中も同じこと。カリエスや歯周病の原因を取り除かず、バクテリアを残したまま

詰めてしまうと必ず再発します。だからこそ患者さんには、「当院ではいきなり削ったり詰めたりはしません。まずはシロアリの駆除が必要です。そのために、お口の中にどれくらいバクテリアがいるかをだ液検査で調べる必要があります」とお伝えしています。

富塚先生 そのうえで、むし歯の原因は一人ひとり違って、なりやすい人となりにくい人がいること。それらの原因を突き止めることで、個々に合った予防対策が

立てられることなどをお話します。意識しているのは、あなただけの「というオーダーメイド感。「この人は、この医院は、自分を大事にしてくれている」と感じてもらえるように話しかけています。

富塚先生 「私のためだけに考えてくれるんだ」「私だけのプランを作ってくれているんだ」と感じてもらえたら、きっと患者さんの満足につながっていきますからね。

「これがあなたの歯です」  
言葉の説得力がぜんぜん違う

富塚先生 以前勤めていた医院で、「デントカルト」ではないだ液検査を使ったことがありますが、でも、いろんな項目がパーッと書いてあつてわかりにくい。何が大切な

のかもわからない。私たちにさえ伝わらないんだから、患者さんがピンとくるわけがないですよ。

富塚先生 あと、色で判定するものが多いように思います。色だけで「あなたのカリエスリスクは高いです」と言われても「ふん、そうなんですか？」って感じだけど、「デントカルト」はミュータンスとかラクトバチラスがっぶつぷで見える。だから、「うわっ、ほんま何かある。スゴいおろろ！」って患者さんのリアクションが大きいんです。「これがあなたのお口の中にいる菌です」という言葉の説得力がぜんぜん違いますね。たまに「写真を撮ってもいいですか？」と聞いてくる方もいるくらいですよ。

富塚先生 「今までそんなんを受けたことない。こんな丁寧な検査してもらったことない。もう全部してー！」って患者さんいました(笑)。「一番印象に残っているのは、「20年前に教えてほしかったわー」とおっしゃった50代の女性。今はもう成人された息子さんがいるのですが、たくさんむし歯をつくってしまったそうです。そのころにだ液検査の存在を知ってれば、防げたかもしれない。そう思ったんでしょね。しばらくして、だ液検査を受けさせるために当時高校生だったその息子さんを連れてきてくれました。

富塚先生 高校生で、しかも男の子でしょ。母親の言うことも聞かないし、部活などが忙しくて歯もちゃんと磨かない。それが、だ液検査を受けて意識がコロッと

変わったんだよね？

富塚先生 はい。ミュータンスもラクトバチラスもびっしりついていて、それを見た瞬間は「……」ってなっていました。カリオグラムをしたら、むし歯を避けられる可能性が8%とか1ケタで。さっきまで静かだった彼の口から、「ええー！ー！？」数字反対じゃなくて、「これ絶対にむし歯になるやん」って次々と言葉が飛び出してきました。さすがに「やらな！」と思ったのでしょね。その後はお母さんもビックリするぐらいの変わり様だったようです。「いくら言うっても変わらへんかったのに、自分からちゃんと磨くようになったんです。ホンマありがたう」と喜んでくれました。すごいことだなあ、と思いましたね。

目的は、患者さんの意識と行動を変えること！

富塚先生 「デントカルト」はモチベーションツールとして最適です。患者さんの「ちゃんとせんとあかんのや」という意識がすごく高まる。そして、もの見事に行動が変わる。自然と健康観の高い方たちが増えていきます。気をつけなければいけないのは、検査することが目的になってしまわないこと。やっただけでは患者さんにはインパクトがありません。だからこそ、「カリオグラム」とセットで導入することが重要なんです。

富塚先生 カリオグラムを使うと、患者



富塚歯科医院(兵庫県)

歯科衛生士 富塚1年目  
羽路 瑠美さん

歯科医師 院長  
富塚 佳史先生

歯科医師  
松井 陽平先生

歯科衛生士 臨床歴9年目  
富士田 千夏さん



『だ液検査』については  
マンスリー・  
インフォメーション **2~3** ページ  
をご覧ください。